

自己評価の結果について

平成28年度

(公表シート 様式 4)

学校法人旭川カトリック学園 留萌聖園幼稚園

1. 本園の教育目標

キリスト教の精神と理念に基づいて、他者に対する思いやりと自己犠牲の精神を育む。幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して周りの世界に興味をもち、探索し、思考する過程を大切に教育を目指している。また、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、園児と教師の間の信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、友達と十分にかかわって展開する生活がなされるように配慮した幼児教育を目指している。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

引き続き幼稚園の教育課程の内容を確認し、教職員間の共通理解を図り、教育の質を高める。園と家庭との連携をより一層深め、園と家庭とがひとりひとりの子どもの様子を、常に同じ理解・把握出来ている様に努める。今年度は新任教諭が多い事から、日々の保育はむろんの事、行事等の事前準備に早めに取りかかる。子育て支援新制度に関しては、平成30年度からの移行に向け、準備を進めていく。

3. 評価項目の達成及び取組み状況

評価項目・目標	取組み状況
1 保育の計画性 保育内容及び指導の在り方等を精査し、指導計画を策定し、教育内容の充実を図る。	新任が多く、全ての面で確認や申し合わせが不可欠だった事から、共通理解の上ではよく話し合い・打ち合わせが出来ていた。しかし、実際に取り組むとなると、経験不足による見通しの甘さがはっきりと表れ、余裕のないものになりがちだった。3年目を迎えた「野菜作り」でも、今年は「食育」も体験できる様な取り組みを計画したが、子どもたちが実際に手がける場面を十分に準備できず、期待したほどの成果は得られなかったという反省があげられた。昨年の反省を踏まえ、日々の保育内容および宗教教育は「年齢に合った無理のない内容に」を心掛けたが、特に宗教の面では課題が残る。適切な状況で保育補助を配置し、保育者の経験年数の差が保育に影響しない様に配慮したが、根本的な保育者不足の問題もあり、今後の課題として引き続き検討を進めたい。
2 保育の在り方、幼児への対応 安全管理の徹底、幼児理解の向上、子育て支援その他の充実を図る。	昨年に引き続き、保育中の事故やケガの発生は少なくなっている。ただ、降園時間や園外保育時など、職員の配置が少し手薄になる時間帯の目の行き届かない状況下で、子ども同士のトラブルやケガの発生があり、それに気づかずに帰ってしまう事で、保護者の不安を募らせる結果となってしまう事があった。保育中の子どもの体調の変化には早めに気づくことが出来、家庭への連絡や対応は迅速に行っていた。また、それにより、インフルエンザ等の感染症の感染拡大をある程度押さえる事も出来たと思う。今年は警察署の協力を得て、初めての「防犯訓練」を実施し、特に不審者対応について研修を行った。自園の防犯体制の弱い部分、また防犯に関する地域との連携の不足を再認識した事から、来年度は強化して行きたい。子育て支援は「預かり保育」に関しては、幼稚園としては十分に役割を果たせていると感じる。しかし、様々な子育ての悩みを抱える保護者に対しての相談窓口としての役割は、まだ十分に機能していないと思われるので、今後は、保護者の要望も取り入れながら、子育て(発達)相談の形での支援も行って行きたい。
3 保育者としての資質 保育専門家としての能力、姿勢、責任等資質向上を図る。	保育の専門家としての能力・技術は経験により差が見られるが、横の連携(学年)強化により、ある程度揃えられる様にとの努力が見られた。ただ、補助教諭に頼り過ぎる事で、補助教諭の負担がかなり大きくなっているという問題も生じてきている事から改善を図りたい。今年度は補助教諭も免許更新講習を受講、新制度に向けて準備を進める事が出来た。その他の研修会への参加は、皆で同じ研修会に参加する機会が多く(主催団体から「参加人数」を求めら

	<p>れる傾向がある)、せつかくの研修が偏ったものになりがちのため、今後は参加人数にこだわらず、幅広い内容を学べる様に工夫していく。保育者個々のスキルアップは各々の努力と向上心で克服するしかないが、やる気を出させる指導や、幼児教育に携わる人間としての姿勢・責任感の意識を高める教育を引き続き行っていく。</p>
<p>4 保護者への対応及び家庭との連携 園児に関わる情報の発信と受信、保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応を図る。</p>	<p>園での子どもの様子、お知らせ等は書面やホームページの充実でより周知されて来ていると感じる。また、行事後の保護者アンケートを基に取り組みの見直しや改善を図る事で、概ね理解を得られる状況になって来ている。就労による保護者の園の活動への参加の困難さは、年々顕著に表れて来ているが、活動の回数を減らす、係活動自体を削減する事で、現時点では大きな負担なく、理解を得られている状況と感じている。しかし、満3歳児からの入園、時間外の預かり保育への要望等は、保育者の不足もあり、なかなか見通しが立たない状況である。また、給食サービスについての要望も多いが、サービスに対応できる業者がない等、地域的な問題もあり困難な状況である。今後、新制度への移行に伴い、保育内容・保育サービスのより一層の充実を求められる事になり、他園とは違う、独自の新しい取り組みを模索しているが、やはり保育者の確保が大きな課題となっているのが実状である。</p>
<p>5 地域社会との連携 地域の自然や社会との関わり及び小学校との連携を図り、地域開放の努力をする。</p>	<p>地域の方々との関わり、活動への参加などはあまり行われていない事を保育者も感じている。高齢者施設への訪問は大変喜ばれているが、昨年度反省にあげられていた「わざわざ作る交流ではなく、普段の保育の中でふれあう機会を持つ」に関しては、取り組むことが出来なかった。今後は積極的に関わりの機会を作り、特に高齢者との交流や、地域活動への参加も保育に取り入れて行きたい。自然豊かな地域にありながら、まだまだ保育の中に十分に取入れられていない状況だと言う反省から、今後は行事の見直しも行き、イベント的な(保護者に見せるための)行事に追われ、せつかくの自然環境を生かしてきれていない部分の改善を図りたい。小学校との連携は、相互の参観(見学会)や就学児の学校訪問などの実施にとどまり、「連携」としてはまだ希薄なものであると感じる。学園内の他の地域の園の活動も参考にしながら、違う形での連携や子どもたちの関わりの方場を検討していく必要がある。</p>
<p>6 研修と研究 研修・研究を積極的に行い、専門性を高める努力をする。</p>	<p>研修会への参加は、幅広くいろいろな研修を受けられる様に、分科会や公開保育参加への工夫を検討しているが、開催時期・場所の問題もあり、まだまだ参加内容に偏りが見られる。保育の専門性の習得に関しては、日々の勤務時間の制約もあり、勤務時間内に時間を作ることは難しく、保育者個々の意識の問題となっているが、格差も生じる事から、今後は定期的にテーマを決め園内研修を実施し、テーマに沿った取り組みや研究を個々で進め発表するなどの形で充実させて行きたい。免許更新講習は該当者が順次取り組み、更新が行われている。</p>
<p>7 情報公開 保育の現状等や自己点検・評価の結果等を個人情報の保護に留意しつつ、積極的に園便り等で情報公開する努力をする。</p>	<p>園だより・クラスだより、また必要に応じて出されるお知らせで家庭との連絡をはかり、幼稚園の様子などを情報公開する様に取り組んでいる。特に感染症・伝染病等の発生時には、緊急速報として随時状況をお知らせしている。また、昨年度の学校評価の結果は、学園ホームページで閲覧出来る様になっている。園の保育中の様子などは、不定期ではあるがブログにて公開し、保護者の閲覧も増加して来ている。今後の課題としては、園の近隣住民の方々に園の活動を知っていただくための広報誌配布などを検討している。</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今年度は新任教諭(新卒・異動)が担任の半数だった事もあり、いろいろな面で反省点が多く出された。特に、1年目の教諭は養成校で学んだ事と、実際の現場での「仕事」のギャップ、社会人としての自覚の甘さなども見られ、今後の意識の持ち方と保育技術習得の努力が必要である。また、補助教諭の仕事の負担増も改善して行きたい。今年で3年目となった「自然」をテーマにした取り組みは、全体的に見てマンネリ化しつつある状況。作物栽培だけにとどまらず、他の自然環境にも興味を深める活動、食育・健康などへの活動へも幅広く展開を充実させて行く。年間を通しての保育

内容は、事故やケガなどへの配慮をする事で、活動に制限が多くなってしまいう部分もあり、子どもたちが園内、屋外、地域の自然の中でのびのびと活動するための人員配置(人員の確保)、保育計画の見直し、環境設定、子どもたちの運動能力・体力の強化などにも取り組んで行く。平成30年度には新制度に移行が決定し、更なる保育の充実、幼児教育の資質向上に保護者の期待も大きくなる事から、新制度のメリットを生かしつつ、子どもたちにより良い「教育」を提供できる様に準備を進めて行く。母親の就労により“幼稚園から保育園へ”という選択の増加も、預かり保育の充実などで、ここ1～2年は回復傾向にある事から、保護者のニーズに出来る範囲で対応しながらも、「幼稚園」に求められているものは「教育」である、という根本からは逸れずに、自園の教育・保育を行っていく。また留萌市全体の少子化は深刻な問題ではあるが、今後も市内2園の連携・協力体制を整えて、地域の「幼稚園」としての役割を果たして行きたい。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組み方法
安全管理	引き続き、保護者参加の防災訓練を実施し、保護者にとっても非常時の危機管理や対応を再確認する良い機会になっていることから、今後も継続して行く。また、園児を対象とした予告無しの避難訓練、状況設定をいろいろ変えての避難訓練も引き続き実施していく。園内外の遊具の点検は学校安全計画に沿って実施がより徹底された事から、遊具の安全管理と誤った使い方による事故やケガの防止にも努めていく。送迎バスの事故防止・安全運転の徹底に努める。
特別支援教育	支援を必要とする子ども達が年々増加の傾向にある事から、引き続き特別支援教育の在り方、取組みに力を入れて行く。支援を必要とする幼児への関わりのみならず、クラス全体・園全体への指導方法を、実践を通して学んで行くと共に、幼児の発達に関わる諸機関との連携の強化、小学校へのスムーズな引き継ぎの面で、保護者の理解を得るための話し合いの場を積極的に持つ。子ども達が安心して教育を受けられるための支援と、幼稚園としての役割を果たして行ける様に努める。(昨年度に引き続き)
園に対する保護者の満足度の把握	本学園の建学の精神に則った独自性に充分配慮しつつ、子育て中の保護者が期待する幼稚園像を把握し、カトリック幼稚園に求められている事を確認する事で、本園の方向性を再認識して行く。また、子育て中の保護者が幼稚園に対し、具体的に何を期待しているのか、あるいは子育ての悩みや問題にも向き合い、様々な情報に惑わされる事なく、安心して子どもを通わせることが出来る環境にして行く。子育て支援に関しては単なる過剰サービスではなく、本当に必要な支援(親にとっても子どもにとっても)とは何かをよく考え対応を検討して行く。正しい情報提供と、保護者の不安や不信感を払拭出来る様、積極的に相談の場も作って行きたい。(昨年度に引き続き)

6. 学校関係者の評価

1. 『保育の計画性』に関しては「やや不満足」から「満足」とばらつきが見られた。教育理念に沿った保育内容は概ね評価されているが、指導計画や実際の取組み内容(特に野菜作り)については、もう少し子ども達が達成感を味わえる工夫や、保護者への情報提供が欲しいと言う意見が複数あった。しかし、「野菜作りは子どもにとって、とても良い経験になっているので、今後も続けて欲しい」という要望も複数あった。園の抱える問題、特に保育者の不足に関しては、行事時の様子からも手が足りない状況が伝わっている部分もあり、「忙しいのは分かるが、担任によって力量の差が見られた」「園からの連絡が徹底されず不安になった」等の回答もあった。しかし、「保育者不足を園だけで抱え込まず、もっと保護者が手伝える場面があっても良いのでは?」「忙しい中、年齢に合わせた丁寧な保育がされていた」「行事等の場面では、新任の先生の一生懸命さが見られた。今後に期待したい」等の意見もあった。また、「保育者の経験不足を補完するために、なお一層の職員間の「報告・連絡・相談」の徹底が保育の向上につながる」「子どもの発達・特性・生育歴を理解し、長期的、短期的両方の保育目標をきちんと設定し、目標に向かって計画が達成される様に取り組む事が大切である」という貴重な意見もいただいた。

2. 『保育の在り方及び対応』に関しては「やや満足」から「満足」の回答であった。幼児の理解、対応については「集団の場での保育に、ある程度のトラブルは仕方ない事。その後の対応や対策には大変満足している」「園での子どものケガやトラブルの様子を電話や書面で知らせてもらい、また、適切な対応に安心できた」など評価された。しかし、「力加減が分からずやり過ぎてしまう子中にはいる。注意の仕方、叱り方など難しい面もあると思うが、ケガをしてからでは遅い…と感じる時もあり、少しくらいきつく叱っても良い場合もあるのでは?」という意見もあった。また、「子ども

の事で不安になり相談した時に、子どもの様子を事細かに教えてもらい、子どもの事をよく把握してもらっている事を感じ、心配事も解決されて安心できた」「担任だけでなく、職員皆が一人一人の子どもの事を共通理解しているのが感じられる。保育者と子どもの信頼関係もしっかりと築かれている」等、評価されていた。

3. 『保育者としての資質』に関しては「やや不満足」から「満足」と、ばらつきが見られた。「満足」の回答では、「一人一人の子どもの様子をよく見ていると思う」「保育者個々のスキルアップに向けての意識の改善や取り組みを積極的にを行い、やる気を出させる指導や、幼児教育に携わる者としての姿勢・責任感の意識を高める努力を感じる」等があげられた。「やや満足」「やや不満足」の意見としては、「様々なトラブルへの対応・経験によりスキルアップを期待する。親も共に成長して行けると良いと思う。」「経験の差だけでなく個々の技術向上に期待する。」などあげられ、今回、補助教員の役割への期待の声も出されていた。また、「園全体として計画的な研修プログラムを検討する必要がある。」「情報の共有や分担の徹底などは職場の雰囲気作りが重要。日常的に職員間の意思の疎通のための雰囲気作りも大切である」等の専門職からのアドバイスもいただいた。

4. 『保護者への対応』に関しては、概ね「満足」との回答であった。①些細な事でも子どもの様子を伝えてくれる事でとても安心出来る ②保育参観・面談・その他の行事等、子どもの様子を知る機会が十分に設定されていると感じる ③感染症等への素早い対応等が評価されていた。しかし、「子どものためと思い、先生への要望など伝える時に、中傷と思われるのでは？と言いきにくい状況もある。」と言う意見もあった。「文面での保護者とのやりとりも必要だが、保護者と直接向き合い、話し合うスキルも身につけて欲しい」「新制度に向けての情報が少ない」など、今後早急に対応が必要な課題も見えて来た。

5. 『地域社会との連携』に関しては、「満足」から「やや満足」の回答であった。高齢者とのふれあい活動は、「今後も積極的に行って欲しい」という意見が多かったが、「おじいちゃん、おばあちゃんとの関わり、ふれあいは家庭でも出来る事。家庭では出来ない事を園で行って欲しい」と言う要望もあげられた。地域行事等への参加に関しては、「参加の機会が少ないと感じる」「土日に行われるイベントの参加はあまり賛成できない。保育時間中に出来る形での参加が望ましい」と言う意見があげられた。また、昨年同様「わざわざ何かを企画して行うという形ではなく、普段の子ども達の園生活の中で高齢者と関わる場面を持つ、地域の活動に興味を持つ形でも良いと思う」という意見もあった。「地域を知ると言う観点では、留萌の自然環境をもっと保育に取り入れる事も含まれる。散歩や園外保育などで体験する機会を多くするのも良いのでは？」という要望もあった。他機関との連携に関しては「どうしても行事や保護者対応が優先になりがちで、本当の意味での地域社会との連携を築くには時間が必要。まずは学校や通園センターなどの身近な関係機関との良好な連携の仕組みを検討して行くことが大切である」と言う意見もいただいた。また「聖園幼稚園は生活発表会や聖劇など文化センターでの発表の機会があり、一般開放されている事から、市民に園の活動・保育を知ってもらう良い機会にもなっていると思われる」「聖パウロ祭を訪れた市民には、幼稚園の活動を知ってもらえる機会になっていると思う」等もあげられた。

6. 『情報公開』に関しては、概ね「満足」の回答であった。①感染症・伝染病の発生時の迅速な状況報告が役立っている。②クラスだよりを通して園での子ども達の様子を伺い知る事が出来る。③園のたよりやお知らせで情報がしっかりと伝えられている、等の評価が多く見られた。改善点としては、④クラスだよりが月に一度では活動の様子が見えにくい→発行回数工夫⑤みそのブログを大変楽しみにして見ている。更なる充実を期待する、等の要望もあげられた。

7. 『その他の意見・感想』として、①災害時や緊急時だけでも、一斉メールで対応出来るが良いのでは？（連絡網は時間がかかるので）②親としては色々思うところもあるが、子どもが楽しく通っているが一番だと感じている ③園舎の徹底した清掃、園庭や駐車場の安全確保と整備、そして保育中トイレ後の消毒等、清潔な環境が保たれている事への評価 ④『ちびっこ教室』は入園前に幼稚園の雰囲気や集団の活動に慣れるという意味で、子どもや保護者にとっては安心して入園する事につながっていると感じる ⑤幼稚園らしくきちんと『教育』していただいているのが、上の子の小学校入学により顕著に表れていた。今後も幼稚園として『幼児教育』の更なる充実を期待する ⑥働くお母さんも年々増えてきているが、保護者の出来る事は協力したいと思う ⑦給食を希望する声も多くなってきていると聞かすが、出来ればこの『幼児期』こそ、家庭の味や食育に対する責任を保護者に受け持っていただく事で、他園とは異なる特徴を示す方策も必要と思われる、等の意見や感想があげられた。

7. 財務状況

大手監査法人である太陽有限責任監査法人(東京)の監査を受け、適正に運営されていると認められている。また、法人本部の財務状況報告により法人内各幼稚園及び学園全体の財務状況は職員の間にも周知されており、共通理解に立って効率的な運営に努めている。